

在外教育施設におけるキャリア教育 — 中学部1年の実践を通して —

前在インドネシア日本国大使館付属ジャカルタ日本人学校 教諭
愛知県安城市立安祥中学校 教諭 安原 健 児

キーワード 在外教育施設、キャリア教育、ICT教育、中学校

赴任校の概要

学校名：日本語：在インドネシア日本国大使館付属ジャカルタ日本人学校

学校名：現地表記 JAKARTA JAPANESE SCHOOL

URL：https://www.jjs.or.id/

1 はじめに

インドネシア（多民族国家約300、約9割がイスラム教徒）には、日本人学校がジャカルタ、チカラン、バンドン、スラバヤの4カ所にある。東南アジアの南部に位置するインドネシア（人口は約2.7億人世界第4位）は、1万8千以上の大小の島から構成される。首都であるジャカルタは、人口は950万人を超えており、東南アジア有数の世界都市でもある。また、ASEANの事務局が置かれている。

2 ジャカルタ日本人学校について

(1) 概要

全校児童・生徒数は694人である（小525、中169）。

(2) 学校行事

主な学校行事は、中1宿泊学習、体育祭、中2修学旅行、JJS（Jakarta Japan School：以下JJS）フェスティバル、小6修学旅行、中2職場体験学習、日イスクール（現地校との交流行事）、中3大使館訪問・国会訪問・ASEAN本部訪問などである。

(3) 特色ある教育活動

小・中一貫校ならではの学校行事、ALT（外国語指導助手）を活用した英語の授業、インドネシア語、英会話などの授業がある。

3 キャリア教育の実践について

(1) 日本とオンラインでつないだ「はたらく」を考えるワークショップ (初の海外授業)

パーソナルキャリア株式会社のキャリア教育講師派遣授業に参加した。「しごとと市場」は、様々な業界・業種からパーソナルキャリアに転職した社員や、採用支援業務を通じて担当業界のプロフェッショナル



オンラインで講話を聞く生徒

ルとして顧客と向き合う講師役となり、それぞれが経験してきた業界・業種についての紹介や「なぜ最初の会社や業界に就職したのか」「なぜ今の会社や業界に転職をしたのか」「将来はどのようなキャリアを歩みたいのか」などを生徒と一緒に考えた。当日は、IT業界、銀行業界、飲食業界、医療業界の方からお話を聞いた。授業の流れとしては、世の中にある仕事の種類や「はたらく」とはどういうことなのかを講師の方と考えた。次に、講師から業界に関する講義を聞いた後、講師へのインタビューを行った。最後に、振り返りをした。授業後の振り返りを一部紹介する。

・「はたらく」とは、最初はただ単にお金を稼ぐことだと思っていたけど、そのお金を稼ぐことにやりがいを見つけるために、自分の就きたい仕事をするのが大切だと思いました。

(2) 「私の行き方発見プログラム」初となる海外での出前授業 (in ジャカルタ日本人学校)

パナソニック株式会社が学校に提供しているキャリア教育プログラムを活用した。多種多様な役割をもって働くことを学び、自分らしい「行き方」を考える内容だ。体育館にて、講師の方が「会社にはどんな仕事があるか」「仕事で大切なことは」「今勉強していることが将来どのように役立つか」というテーマに沿って、クイズなどを交えながら授業が進められた。最後に、「15年後のなりたい自分」について考え、今の自分、将来の自分を考える時間になった。



出前授業をする講師

(3) ジャカルタにある企業による職業講話会

株式会社三菱UFJ、カワサキモーターインドネシア、インドネシア三菱商事、日本航空株式会社、トヨタインドネシア、山九インドネシアインターナショナル、マンダムインドネシア、東京海上インドネシア8社から講師を招いて実施した。生徒は、この中から4社を選び、講話を聞いた。この講話を通して、生徒自身の職業観が地域、日本、世界へと目線が変わった瞬間であった。



企業の方の講話

(4) ミニキッズニア (学習の成果を発表するJJSフェスティバル)

キャリア教育で学んできたことを発表する場のJJSフェスティバル。グループごとに、これまでに学んだり、感じたりしたことをスライドにまとめて、保護者に向けて発表した。また、小学部1年～中学部3年に向けて、ミニキッズニアというテーマで、自分たちが考えた職業ブースを展開した。ブースは、配達業、マジシャン、科学者、ピZZニア、デザイナー (名刺作り)、演者&シナリオライター、コンビニ店員、ハンドメイド作家、はんこ作りなどである。実演することで、キャリア能力が高まった。写真は、紙のトッピングでオリジナルピZZを作成しているところである。



オリジナルピZZづくりのブース



プレゼンをする生徒

(5) JJS海外特別インターン生として、日本のキッザニアへNEWPVを提案

キッザニアの方々の協力により、海外インターン生として、JJSフェスティバルで披露したブースを再考し、NEWPVを提案する企画が生まれた。「テーマ」「提案の理由」「アクティビティの内容」「アピールポイント」の4点をスライドにまとめ発表した。プレゼンした中から優秀賞として、「ドラマ」（ドラマのあるシーンを体験・経験できる）というPVが選ばれた。

当日は、担当の方の他に副社長宮本氏も来ていただき、緊張感あるプレゼンになった。また、社会人と同様に講評していただいたことにより、社会人になったときに感じる想いも体験できたのではないかと。

4 成果と課題

成果としては、ICTを活用した今後のジャカルタ式キャリア教育につながる実践を残すことができた。また、インドネシアと日本をつなぎながらキャリア教育を行うことができた。

課題としては、ジャカルタ日本人学校だからこそできるジャカルタ式キャリア教育を中学部全体としてモデル構築できなかったことである。また、ジャカルタにある人・もの・ことなどを発掘して、日々の教育活動につなげていくことも今後の課題である。

5 おわりに

コロナ渦の教育活動と通常の教育活動の両方体験できた貴重なジャカルタでの生活でした。目の前にいる生徒をどのように成長させていくか、考え抜いた3年間でした。最後に、このような機会を与えてくださり、温かく見守ってくださった愛知県教育委員会の皆さんに深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。この教育実践・体験を、安城市の教育活動に生かして参ります。